

# 知識探訪

多民族社会の横顔を読む  
協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

## ルックイーストとインドネシアの関わり

野中葉 (慶應義塾大学)

先ごろ、皇太子さまがマレーシアとの外交関係樹立60周年を機に、同国を訪問したニュースが各マスコミによって報じられた。日本とマレーシアの友好関係の象徴として多くの人に知られているのは、1980年代初頭に始まった「ルックイースト(東方政策)」であろう。日本などを手本に工業化と経済成長を達成したこの政策は、マレーシアの専門家でなくとも、少なからず耳にしたことがある。

筆者は、現代インドネシアのムスリム社会に関心を持つ研究者である。マレーシアについては門外漢であるが、先日、60年代～70年代のインドネシアの学生イスラーム運動に関する資料を調査していた際、マレーシアの工業化に関わる興味深い内容を発見した。80年代以降のルックイーストの実施と、その後の工業化をもたらす要因の一つが、70年代初頭のインドネシアとマレーシアの接触の中に見られる、という仮説のもと、その接触の様子を記述してみたい。

ルックイーストでは、多くのマレー系学生が日本に留学し、理系を学び、また多くのマレー系技術者や労働者が、日本の製造業の現場に派遣され、日本の工業技術を学んだことが知られている。帰国後の彼らが、マレーシアの工業化の主要な担い手となった。しかし、インドネシア側の資料によれば、それより10年ほど前の71年、インドネシアのバンドン工科大学を訪れたマレーシアの高等教育長官は「我が国のマレー人は、西欧に関する事柄はイスラームに反するという意識があり、西欧で発展したテクノロジーを学びたがらない。だから今でも、テクニカル・カレッジ(現マレーシア工科大学)の学生のほとんどが華人系かインド系で、マレー人はとても少ない」と語っている。

高等教育長官の訪問の目的は、マレーシアの大学教育拡充を支援するため、インドネシアから派遣できる大学教員をリクルートすることだった。当時、マレーシアは、マレー系優遇を柱とする「新経済政策(NEP)」をスタートしたところだった。この政策の下、マレー系に対する高等教育の就学機会の拡充、マレー語での授業拡大を目指していたものの、それまで英語による教育が一般的だった高等教育機関において、マレー語を使い、特に理系の分野を教えることのできる人材は圧倒的に不足していた。当時のラザク首相の意向により、多くのムスリムが教鞭をとるインドネシアに対し、教員派遣の要請が行われたのである。

白羽の矢が当たった1人が、電気工学を教えながら、バンドン工科大学のサルマン・モスクにおけるイスラーム活動の指導的役割を果たしていたイマドゥディン・アブドゥルラヒムだった。サルマン・モスクは、同大学に通うムスリム学生たちの働きかけにより建設された大学モスクであり、70年代初頭のモスク完成以前から、モスク建設運動と

共に活発なイスラーム活動が行われていた。イマドゥディンは、この運動のリーダーの一人だった。彼が説教の中でたびたび説いたのは、イスラームと近代科学の相互補完性だった。この思想は、彼の回顧録の中の言葉に表れている。

「私が説教の際に常に強調してきたのは、共に神に由来する学問である科学とイスラームを統合することである。前者は不文の神の慣行(アッラーのスナ)であり、また後者はクルアーンとして文字化されていて、信仰と敬虔さを生じさせるものである。両者をつなぐ思考が必要とされている。」

インドネシアの理系の最高学府であるバンドン工科大学で教鞭をとりながら、イスラームと科学の融合を説くことのできるイマドゥディンは、マレーシアにとって非常に有用な人材だった。72年に派遣されて約2年間、イマドゥディンはテクニカル・カレッジや新設のマレーシア国民大学で教鞭をとり、また学外のモスクでは特に若者たちに対し、近代科学やテクノロジーとイスラームの関係性について熱心に説いた。彼に師事した若者の中には、アンワル・イブラヒムらABIM創設者たちも含まれている。

テクニカル・カレッジは、イマドゥディンがマレーシアに滞在中の72年に国民工科大学になり、その後75年にマレーシア工科大学になった。70年代には、マレー系優遇政策が進展し、就学機会が拡大して、多くのマレー系学生が大学に通うようになった。また80年代には、ルックイースト政策によって多くのマレー系が日本に渡り、技術を習得して、その後のマレーシアの工業化、経済発展に貢献した。同国の工業化や経済発展をもたらしたルックイースト政策につながる萌芽の一端を、70年代初頭のインドネシアとの関わりの中に見てとることができそうである。

### < 筆者紹介 >

慶應義塾大学総合政策学部専任講師。専門はインドネシア地域研究。研究テーマは、現代インドネシア社会におけるイスラームの受容と広がり。著書に『インドネシアのムスリムファッション なぜイスラームの女性たちのヴェールはカラフルになったのか』(福村出版、2015年)。主な論文に「イスラーム的価値の大衆化 書籍と映画に見るイスラーム的小説の台頭」倉沢愛子編著『消費するインドネシア』(慶應大学出版会、2013年)など。